

トサヒメハナカミキリ *Pidonia approximata* Kuboki

【選定理由】

太平洋型のブナ林を代表するカミキリムシで、県内では奥三河地方に分布するが、ブナ林の減少や林床の乾燥に弱く、生息基盤が脆弱である。

【形態】

体長 6.4～8.5mm の小型のカミキリムシ。脚は黄色、頭部、胸部は黒色で、上翅は黒地に黄色の紋がある。よく似た近縁種とは上翅の紋の形から区別されるが、類似種が多く同定には注意が必要。

【分布の概要】

【県内の分布】

県内で生息が確認されているのは、設楽町、豊田市（旧稲武町）、豊根村の3カ所に過ぎない。

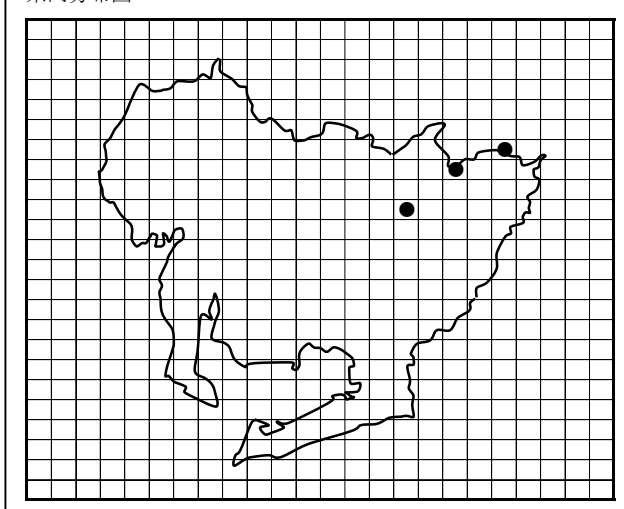
【国内の分布】

関東以西の本州、四国、九州のブナ帯に分布する。本州の分布は太平洋あるいは瀬戸内海側に限られ、日本海側のブナ林を主要分布域とする近縁種、ミワヒメハナカミキリと住み分けている。

【世界の分布】

日本の特産種である。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

ブナ林が主要な生息環境である。成虫は5～7月に出現し、コバノガマズミ、タンナサワフタギなどの花に集まる。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内には、ブナ林が非常に限られ、生息基盤そのものが脆弱であるが、生息地での生息状況は比較的安定している。

【保全上の留意点】

本種は、林内の乾燥化に敏感と考えられ、林の面積の縮小がそのまま本種の生息を脅かすことになると考えられる。ブナ林内の歩道、林道整備には注意が必要である。現在の原生林の環境を守るため、特に原生林に接する道路では、林縁部の過度な伐採は、林内への悪影響をもたらす危険性が高く、配慮が必要である。

【関連文献】

湯沢宣久・蟹江 昇・河路掛吾・竹内克豊, 1990. 愛知県のカミキリムシ科. 愛知県の昆虫, (上): 389-433. 愛知県.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)